

# 記述欄にいただいた御意見

## 1. はじめに

『自分から睡眠やゲームなどの時間について、また、食事や運動などの健康に気遣うことができるよう関わっていることがあればお知らせください。』という各家庭での取組についてたくさんの御回答をいただきました。また、保護者が学校教育に抱いている「率直な期待」と、日々の「家庭での悩み」なども伺うことができました。本資料を、学校と家庭がより効果的な連携を築き、お子さんの成長を共に支えるために活用していきたいと考えています。

## 2. デジタル・生活習慣を巡る家庭の葛藤と工夫

デジタルデバイスの利用や生活習慣の確立において、各御家庭では「自律に向けた対話」と「依存を防ぐ強制力」の間で葛藤がある状況です。

### 家庭での対応策の整理

#### 見守り機能の活用

- 「みまもりSwitch」やアプリによる物理的な時間制限を設定。
- Wi-Fi環境の遮断や、決まった時間でのロック機能を活用し、子どもの意志だけでは制御しきれない部分をシステムで補完している。

#### タイマーと対話による納得感の醸成

- タイマーで一律に終了させるだけでなく、終了間際に「そろそろキリの良いところで終わりにしよう」と声をかけ、子ども自身の区切りを尊重している。
- 約束を5分過ぎることよりも、「自ら納得して電源を切ること」を優先し、強制終了による反発を防ぐ教育的配慮が見られる。

#### デジタル依存への危機感と科学的アプローチ

- 知見を伝え、意志の力だけでは太刀打ちできない現状を説得。
- スマホによる脳疲労や不登校リスクを懸念し、暇な時間はマンガ本や辞書・事典を活用するよう誘導する模索が続いている。

**【分析のポイント】** 保護者は「親の指導だけではデジタル依存を回避しにくい」と感じています。学校はこれまでの指導に加えて「情報モラル教育」を通じ、科学的・客観的な視点からデジタルの影響を指導することで、家庭での親の説得力を補完していくことが大切だと考えています。また、生活習慣の構築において、ある保護者は「**睡眠は土壌である。良い種(学習や運動)をまいても、土(睡眠)が良くなければ育たない**」と述べ、毎日10時間以上の睡眠を徹底しています。この「土壌」を整えることが、次の学習支援へとつながりそうです。

## 3. 学習支援に対する保護者の切実な期待：宿題とクロームブック

学習面では、家庭での学習の進め方として個人に合った「型」や「ルール化」を求める声があります。

#### 宿題(家庭学習)

- 「毎日でなくてもいいから、学校からプリント等があると助かる。」
- 家庭での学習の程度が「中学進学時の格差」につながるのではないかと心配。

#### クロームブック

- 「持ち切り許可制ではなく、金曜日の持ち帰りなどルール化してほしい」自主性に任せると持ち帰らなくなる。明確なルールがあれば、週末の家庭学習の指針として活用しやすい。

#### 評価と興味

- 「学年が上がり理解度が低下している」「漢字への興味が薄れた」内容の難化に伴い、家庭学習と併せて、より楽しく学べる、学習に対する興味をもてる工夫を学校に期待している。

【分析のポイント】 家庭での学習管理をスムーズにするための手立てを、家庭と学校で構築していく必要があります。よりよく中学校での学習につなげていけるよう学年の発達段階に応じた、家庭での学習の習慣化を学校が例などを示していくことで、家庭学習の「質」を保ち、高めていけるようにしていきたい。

## 4. 健康・安全と対人関係における連携

健康面や生活態度について、保護者は家庭での指導に励みつつ、学校現場での毅然とした対応を望んでいます。

- 食育の現状：** 食事中に栄養素（タンパク質やビタミン等）の効果を話題にし、苦手なものも「一口は食べる」挑戦を促すなど、健康な体作りへの意識が高い。
- 運動の機会：** 体力をつけるための習い事に加え、冬場はソリ遊びや「雪かき」を意識的に取り入れ、外遊びの時間を確保している。
- 生活態度の指導：** 言葉遣いの荒れや「卑猥な言葉」の使用に対し、家庭での注意だけでは改善しない現状があり、学校での指導を強く求めている。

【分析のポイント】 自立を促したいと考えているのは、各御家庭も学校も同じだということがわかりました。学校と家庭が同じ歩幅で子どもに向き合うためには、指導の意図を共有し、役割を分担する必要があると考えます。

## 5. 結論：家庭と学校の「連携」のあり方

本資料を通じて、保護者は学校と共に教育についての歩みを進めるための「ガイド」が必要であることが明確になりました。

1. **「ガイド」を求める保護者の心理：** 保護者は、学年の発達段階に応じた家庭での学習の進め方を明確にすることで、中学校へも円滑に進学できるようにしていきたいと考えていることがわかりました。保護者は、学校からの具体的な課題や、クロームブックの持ち帰りルールを必要に応じて示されることで、家庭での学習や教育が進めやすくなると考えていることがわかりました。
2. **デジタル環境への対応：** 学校が科学的根拠に基づいた指導などを行い、保護者とその学習について共有することで、保護者が家庭でも同様に指導することで効果を上げていきたいと考えています。
3. **対話による役割分担：** 言葉遣いや規範意識などは、保護者と学校の両面から支えていく必要があると考えます。保護者と学校は「子どもの成長」という共通の目的を持つパートナーとして、保護者が家庭で教育的な役割を果たせるよう、専門的な「指針」を提供することで、共に子どもを育てていく連帯を築いていきましょう。

たくさんの御意見をいただき  
ありがとうございました。

